

「次世代品種」の開発と産地普及

代表取締役CEO 野秋 収平

株式会社CULTA





農業の産業変革を目指す ディープテックスタートアップ

会社名	株式会社CULTA(カルタ)
代表者	代表取締役CEO 野秋 収平
所在地	東京都小金井市中町2-24-16 農工大・多摩小金井ベンチャーポート 303
資本金	9,730万24円
共同研究先	国立研究開発法人理化学研究所
株主	経営陣, Archetype Ventures, リアルテックファンド, SMBCベンチャーキャピタル, 個人投資家複数名
ミッション	「未来の適地適作」で、生産者と消費者を幸せにする



自己紹介

野秋収平

1993年 静岡県沼津市生まれ

2017年 東京工業大学(現東京科学大学)工学部 卒業

株式会社CULTA 設立

2019年 東京大学農学生命科学研究科 修士課程 修了

(専門:画像解析の農業分野への応用)

2023年 Forbes JAPAN 30 UNDER 30 2023 (世界を変える30

歳未満30人) SCIENCE & TECHNOLOGY & LOCAL

部門 選出



「日本の農業での新たな挑戦」「農業の気候変動適応」の文脈でメディア実績多数

主な掲載メディア



NHK 元日NHKスペシャル「2024私たちの選択」 (2024年1月4日)

日本經濟新聞

NHK

Forbes

TBS

BSテレ東











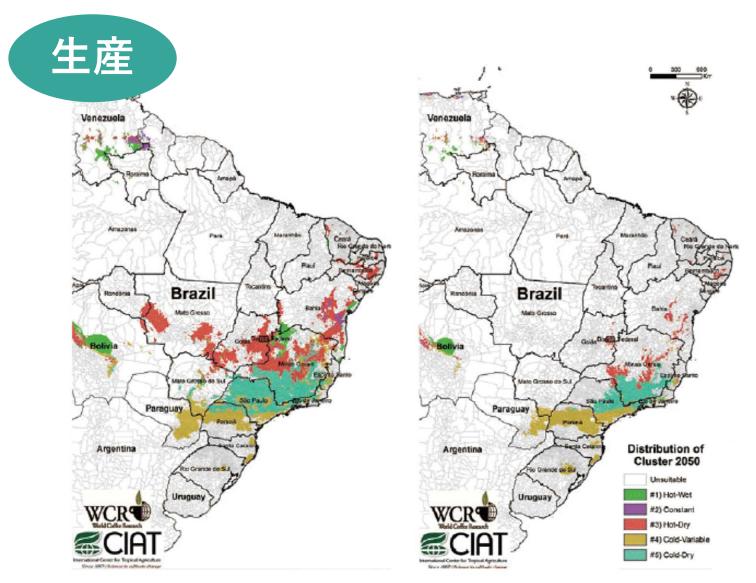


決変する手送馬市

はの変数との開いた (仲間の所は)根こそぎナシの木・ナシ棚 園地がそっくり何も無くなっていたと

加速する気候変動で農業の生産性が激減 根本的解決策として「品種」への要求は、かつて無いほど高まっている

2050年にコーヒーの 生産面積50%減



出所:キーコーヒー株式会社

気候変動の影響ですでに価格2倍



出所:日本経済新聞

気候変動

日本中のイチゴ生産者から上がる悲鳴

開花・収穫の遅れ

春先の品質低下

病気の多発



年内収量が1/4になり そうだ

JA西三河 I さん



このままだとGWまで 出荷できるか不安

44

福岡県 Kさん



ゲリラ豪雨のせいで、 苗の病気が多発

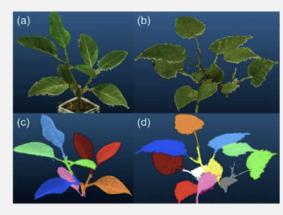
静岡県Iさん

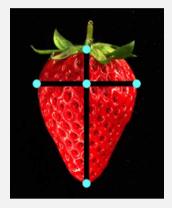
AIと育種専用工場をベースにした、独自の高速育種プロセス開発期間を大幅に短縮し、気候適応品種を開発できる



ジェノタイピング (Genotype)

植物個体の遺伝情報を取得





フェノタイピング (Phenotype)

植物体や果実の特性(表現型)情報を画像から取得し数値化



育種AIモデル

交配予測モデル

どんな掛け合わせをすると、 良い後代(子供)が生まれるか?

特性予測モデル

その環境で新品種はどんなパフォーマンスになるか?





育種専用工場

育種プロセスを高速化することに特化し、 環境・養液・栽培をコントロールする人工環境

Step1. 交配

交配予測モデルに基づいて交配

品種候補を3倍速で開発

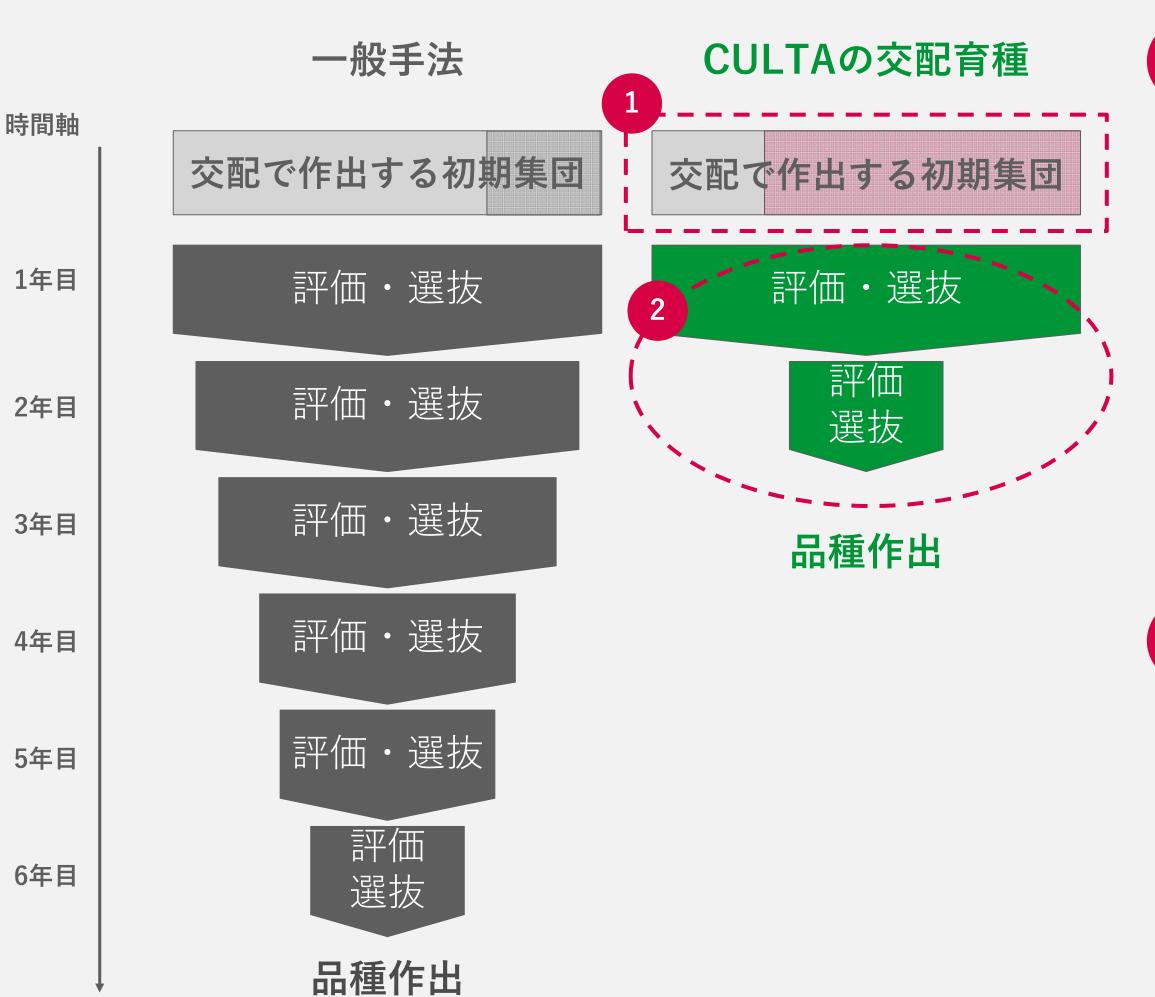
Step2. 選抜

特性予測モデルに基づいて

精度の高い選抜精度

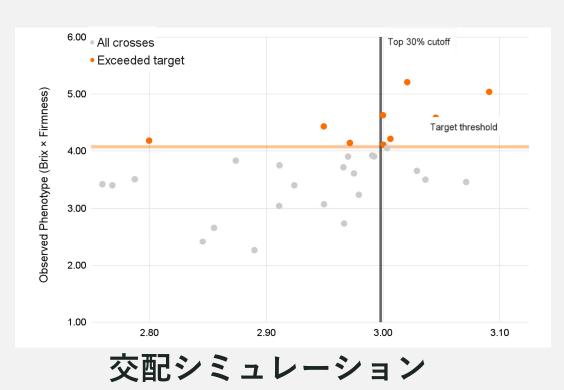
解決策

ゲノム情報AIと人工環境での開発により、10年かかる品種開発を5倍速に高速化 気候変動時代に先回りして、次世代品種を生み出す



初期集団から良い品種が生まれる確率を上げる

交配シミュレーションと人工環境を使った初期集団作出



遺伝情報から親の組み合わせを最適化

一般手法の3倍速で交配を重ねる

人工環境栽培による集団作出

絞り込むスピードと精度を上げる

表現型に加えて遺伝情報解析を用いて選抜し、選抜回数を最小化

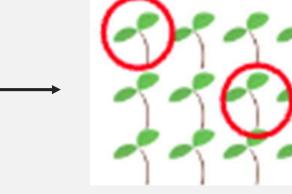




表現型(目に見える特徴)

※通常はこれだけで評価・選抜





遺伝情報による選抜

ゲノム情報から特性を予測するAIを適用

開発の成果

通常10年かかると言われるイチゴ新品種を、わずか2年で開発 複数の品種開発で再現性も確保

紅ほっぺ (対照品種)

自社品種 (CULTA-T3L)











収量

602.7 g/株

30%以上

794.4 g/株

果実硬度(輸送性・棚持ち)

0.31 kg

40%以上

 $0.44 \, \text{kg}$

8.59 % 平均糖度(甘さ)

12.2%







ゲノム編集ではないから、あらゆる世界に普及可能・あらゆる作物に

応用可能

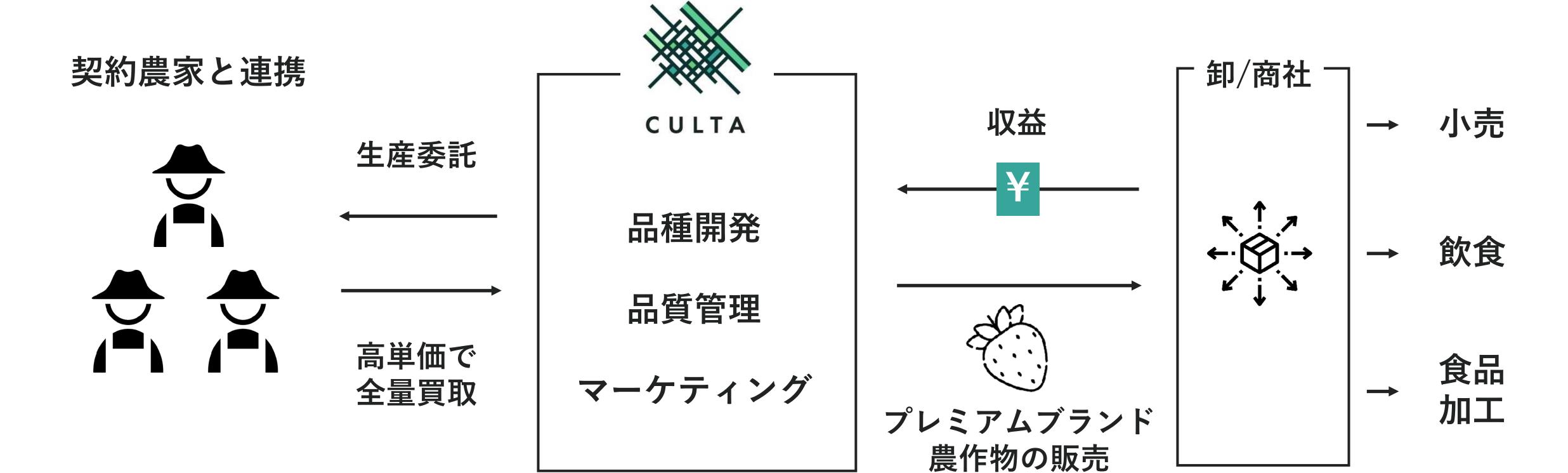




グローバル多品目展開に 適している

ビジネスモデル

提携農家が生産、自社で全量買取・販売 農家の収益に責任を持つ「垂直統合」モデル



農家は顧客でなく、パートナー「農家が儲かる」にコミットする事業

販売成果

シンガポール・マレーシア市場での試験販売は即完売 2年で開発したイチゴ新品種が、東南アジアで高い評価を得ている

シンガポール・マレーシアのミドルアッパーレンジの 量販店への陳列をすでに実現

シンガポール





マレーシア





マレーシアにて1パック2,000円にも関わらず、1店舗あたり30パックが1日で即完売



生産展開

CULTA品種を高温多湿のマレーシアで生産着手 東南アジアの大規模生産事業者と高品質な生産ができている

現地品種 Festival (世界シェア25%のトップ品種)

収量は多いが極めて食味が悪い



CULTA品種

生育旺盛で品質も日本産と同等の優れた結果







マレーシア提携イチゴ農家 Ayahmanさま

T3 (CULTA品種) はすごい。Festival (現地米国系品種) よりも全然よく育つし、甘い。

生産展開

生産展開開始2年目で、

日本全国100軒の生産者・農協が CULTA品種の栽培に着手

> 全国100農家 弊社品種を生産



卸売市場よりも高単価

全量買取で農家の収益安定へ

CULTA 買取価格

2,350 円/kg

さらに 原則全量買取・期間中一定

通常あまおう市場平均取引価格※

1,450 円/kg

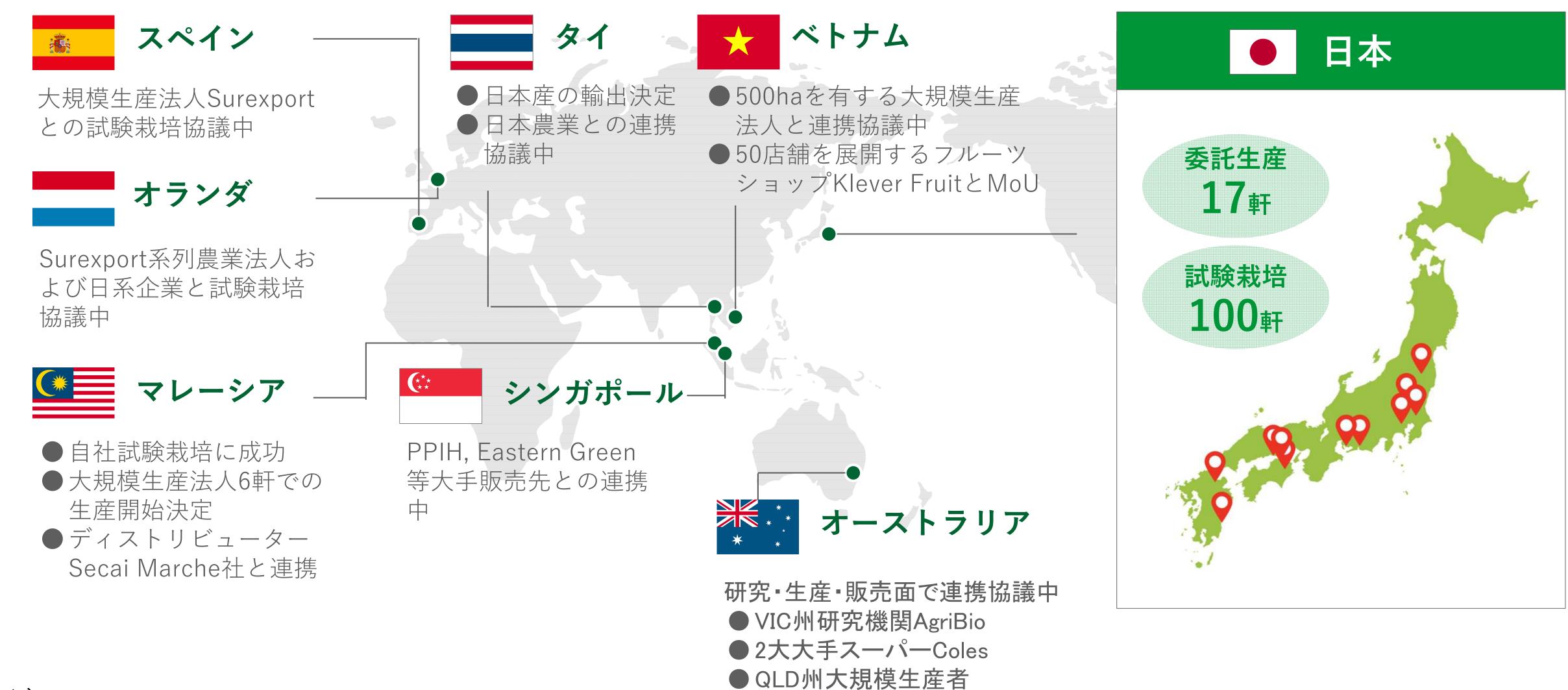
※ 福岡県産あまおうの年平均市場取引価格より

16

62% UP

今後の事業展開

「日本品質を現地で実現したい」世界中から連携の声が多数





今後の開発展開

気候変動に脆弱な「果樹品目」に着手 世界中の食の豊かさを、贅沢にしないことを目指す

2022~2025 2026~ 2030~



育種高速化実証としての イチゴ



日本のお家芸であり、 巨大市場規模を有する果樹品目



海外普及が前提の品目に 開発着手

